

夢に出てきた骨壺

今

回は私達が一生を終えた後に収まる場所「骨壺」にまつわるお話をします。

今でこそ、遺体を火葬して骨壺に収めることは一般的ですが、山武市近辺でもつい30年くらい前までは、遺体を火葬せずに棺に納めてそのまま葬る土葬も行なわれていました。

では火葬はいつ頃から行なわれていたのでしょうか。

古くはインドで釈迦が火葬にされています。

日

本での火葬については、仏教の伝来と関係して説明されることが多く、日本で最初に火葬にされたのは（飛鳥時代の西暦700年）道昭というお坊さんだったといわれています。



写真1 / 新坂遺跡の骨壺出土状況

しかし最近になって、この例を遡ること100年以上前の古墳時代にも、火葬が行なわれていた事例が確認されています。

その後、西暦800年代になると、皇族や貴族などの身分の高い人々の外、地方の有力者の間で火葬が広まったようです。全国各地から出土する骨壺がこの事



写真2 / 骨壺

実を物語っています。

山武市内でもこの頃の骨壺が数点見つかっています。

写真1は山武地区・矢部の新坂遺跡で骨壺を検出した時のものです。

この骨壺を発掘した後、夜寝ている時に「何で掘った。何で掘った」と恨めし気な老婆の声にうなされたことのある「いわく



写真3 / 骨壺検出状況

付き」の品です。

この骨壺は静岡県浜名湖の西側にあつた湖西窯（こさいよう）という窯で焼かれたものです。いったいどのような経緯を経てこの地に運ばれたのでしょうか。

そして、この骨壺に葬られたのは筆者の枕元に現れた老婆だったのでしょうか。疑問は尽きません。

ちなみにこの骨壺、骨董的な価値は何十万もするそうです。

写真2も同じ遺跡から出土した骨壺です。こちらの骨壺は大きなふた付きです。

写真3・4は骨壺が出土した時のものです。四角い墓穴を二段に掘り、内側の小さい穴に骨壺を入れた後、



写真4 / 骨壺調査状況

周りに木炭を充填していません。

今 回紹介した骨壺が出土した新坂遺跡は調査の結果、古墳時代から奈良・平安時代の一般庶民の暮らした農村であることがわかりました。

そんな農村の中からポツンと当時の「セレブ御用達」の骨壺が出てくるのは何とも不思議ですね。

ひよっとしたら新坂遺跡の近くに位の高い坊さんが住んでいて、たまたま新坂遺跡に葬られたのか。

はたまた、新坂遺跡の近くに居を構えた豪族のお墓か。謎は深まるばかりです。